

オオハマボウの1日

小笠原村立小笠原小学校
5年 古川 奈々

1 研究の動機

花が好きなので島の花について調べることになりました。公園に行くといつも、おれなまま落ちているオオハマボウを見て、どのように色が変わるのかや、なぜ1日で花が落ちてしまうのか気になって調べました。

2 予想

花は12時ぐらいまで黄色く、だんだん少しずつオレンジ色になって、3時半ぐらいから花が落ちると予想しました。

オオハマボウ
花言葉 楽しい思い出、友情、感謝、勇気、希望。



3 研究の方法

- 午前中は、2時間ごとに、3時半からは30分ごとにオオハマボウの変化を観察しました。
- 資料やインターネットで調べました。

4 オオハマボウの紹介



オオハマボウは南方系で国内では、本州以南と小笠原に分布します。

小笠原には、海流散布でたどり着いたと思われます。

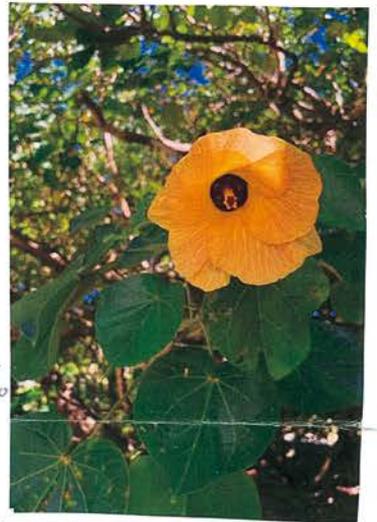
花の色が変わる一日花のため、島では「カイカインナセ」ともよばれています。

オオハマボウはかなり大きくなる木です。

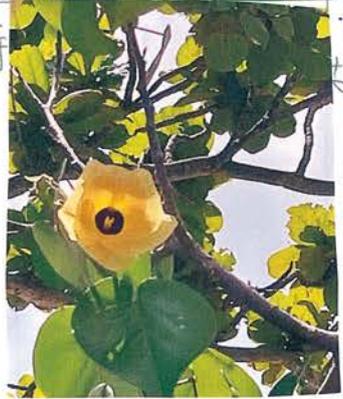
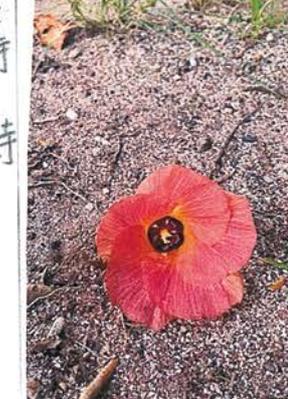
少し内陸部だと、10mを超える樹高になっているものも見かけます。

オオハマボウは、アオイ科フヨウ属で、花弁は大柄な黄色5弁、徐々に赤変します。

葉は大柄なハート型です。葉の表面にツヤがなく、ざらざらした感角虫です。



5 観察の結果

8時		・全体が黄色。	午後2時		・外側の花びらがオレンジ色になった。
10時		・色は変わらなかった。 ・花が少し開いた。	午後3時半		・赤やオレンジ色になった。
12時		・ほんのりオレンジ色、ほく なつた。	午後4時 5時		・赤色が少しだけこくなつた。 ・4時20分で花が落ちるのが早い木は全て落ちた。 ・4時半にはほとんどの花が落ちていた。 ・5時にも落ちていない花が少しあった。 ・もしかしたら、上の方の花は落ちるのが少しおそいのかもしれない。

○ 花が落ちる仕組み

1日で落ちる花の仕組みは、花弁の根元に細胞層が形成され、それまでの花托から切りはなされるためです。また、植物は受粉や受精に成功した後、次々新たな花を咲かせて多くの種子を作ることを目指すため、1日花は次世代の生成といふ植物本来の目的を終えると、生理的にしおれるしくみになっています。

1日花は、オオハマボウの他にも、ハイビスカスやアサがお、ツクサオシロイバナなどがあります。



6分かったこと

予想とはちがいで12時ごろからオレンジ色になり始め、赤っぽくなるのは3時半ごろでした。

花が落ち始めるのは3時半ではなく4時ごろからでした。高い方に咲いていた花は、5時になっても花が落ちていなかったのだから、高い方に咲く花は花が落ちるのがおそいことが分かりました。

1日で花が落ちる理由は、たくさんの花を咲かせて、たくさんの子を残すためでした。

1日花はオオハマボウの他にもたくさん花がありました。

7感想



花が落ちる時間については花が高い方に咲いている花と下の方に咲いている花の落ちる時間帯がちがうのが言周べたらもっとよくなったと思います。

最初の花は、花がしおれないまま落ちてしまうのはきれいなものにもったいないと思ったけれど、花をいっぱい咲かせるためだと矢張りおどろきました。花も工夫して子孫を残しているすごいなあと思いました。



オオハマボウは漢字で書くと

大浜木

沖縄では「ゆりな」とも呼ばれ、ハイビスカスの仲間です。

追加情報 『テリハハマボウ』って知ってる？

小笠原には、オオハマボウの祖先種が「内陸部で」進化して固有種になったと言われている「テリハハマボウ」という木植物があります。

テリハハマボウは、山でもに自生する高さ3~10mになる常緑高木です。

海流により木種子が運ばれてきたオオハマボウが起源とされ、小笠原の乾燥した山でも適応することで固有種に進化したと考えられています。オオハマボウとテリハハマボウはとてもよく似ています。

オオハマボウとテリハハマボウの見分け方は、葉を観察すると分かります。テリハハマボウの葉は、小形(5~9cm程度)で厚みがあり表面には光沢があります。表面は毛がなく緑色をしています。

オオハマボウは、大形(10~15cm程度)で、うらみ面には毛があるため、白っぽくキラキラとしています。

8 参考文献

① 『太陽の花』 横場貞己人 フレーベル館

公益財団法人 東京都公園協会

小笠原ヒジメセンターのニュースター 2025年8月1日
vol.152

② HP 「三ツ沢公園」 hama-midorinokyokai.or.jp

「植物図鑑」(国営神奈川記念公園) oki-park.jp

MULBERRY (小笠原のかいせんのアロカ)

09.asawara-mulberry.net

9 観察した場所

小笠原村父島宝西町、おまつり広場

《色が変わる理由》

花の色が変わるのは、アントシアニンの効果です。花の色が変わるのは、植物が紫外線などの有害な光から実を守るためにたくわえられる青むらさき色の天然色素。アントシアニンは25℃以上の気温で合成し、温度が高いとより色素がでやすい(赤みが強くなる)そうです。



オオハマボウ



テリハハマボウ